



# なかい

北九州市立中井小学校

学校教育目標

心身ともに健康な子ども

な…なかよく  
か…かしこく  
い…いきいきと

## 平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」については、平成28年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

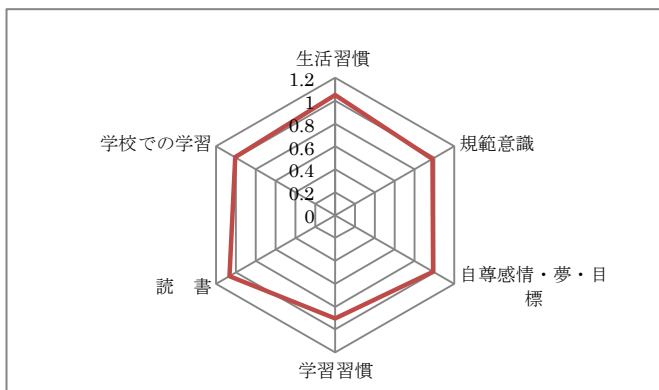
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

学力の定義や捉え方は様々であり、一概に論じることができません。この学力調査もそのときの学力の一部を表しているに過ぎませんが、この結果も客観的な指標の一つであると考えます。本校では調査結果も重視し、今後も効果的な指導や学力向上につながる教育活動が実践できるように努めてまいります。ご家庭でも家庭学習チャレンジハンドブックなどを参考にされ、お子様の学習をご支援いただけましたら幸いです。

### 1. 教科に関する調査結果の概要

カテゴリー	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	全国平均を上回ることができた。漢字の読み書きはできているが、ローマ字の定着ができていない。話す・聞く領域に課題があるので、日頃の学習から話す・聞くことを習慣化する必要がある。	上回っている
国語B	目的に応じて本を選び、効果的な読み方を工夫することができている。話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問したいことを整理することに課題がある。30秒スピーチや紹介する場面などを取り入れ、相手に伝えたり話し手の意図を読み取ることに慣れさせることが必要である。	同程度である
算数A	全国平均正答率をわずかに下回っていたものの、昨年度より上昇し差も縮まった。割合や百分率など、基準量と比較量の関係を理解することに課題がある。繰り返し問題を解いて、問題に慣れ親しむ必要がある。	下回っている
算数B	全国平均を上回ることができたものの、「活用」に関する問題になると、無解答率が高くなっている。特に、数学的な考え方で意味を記述する問題の無解答率が高い。日頃の学習から、自分の考え方をノートに記述して説明するなど、積み重ねが大切である。	上回っている

### 2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要



#### 質問紙調査の結果分析

全体的に全国の結果と同等だが、家庭における学習習慣が下回っている。特に「自分で計画を立てて勉強をしている」の項目が低い。原因として①勉強の仕方が分からない②もっと調べたい・勉強したいとの意欲の高まりがないことが考えられる。

そこで、どのように宿題や自主学習に取り組めばよいのか、具体的なモデルを示したり、家庭学習してきたことを紹介したりするなどの工夫が必要である。

### 3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

算数科について計算の基礎基本の徹底が必要。全校では、朝の「学習タイム」や給食準備中の「算数道場」で、繰り返し計算問題をやる。宿題の内容を学年で見直し、100%の提出を目指す。また、一時間一時間の授業で練習問題までを確実にやり、学習内容の徹底を行っていく。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

早寝・早起き・朝ごはんなど、基本的な生活習慣は身に付いている。しかし、1日当たりの通話やメール・インターネットを3時間以上する児童が全国平均よりも多い結果になっている。携帯・スマホ・ネットの正しい使い方の指導を行うと共に、保護者会等でもメディアの危険性について伝え協力して頂く。